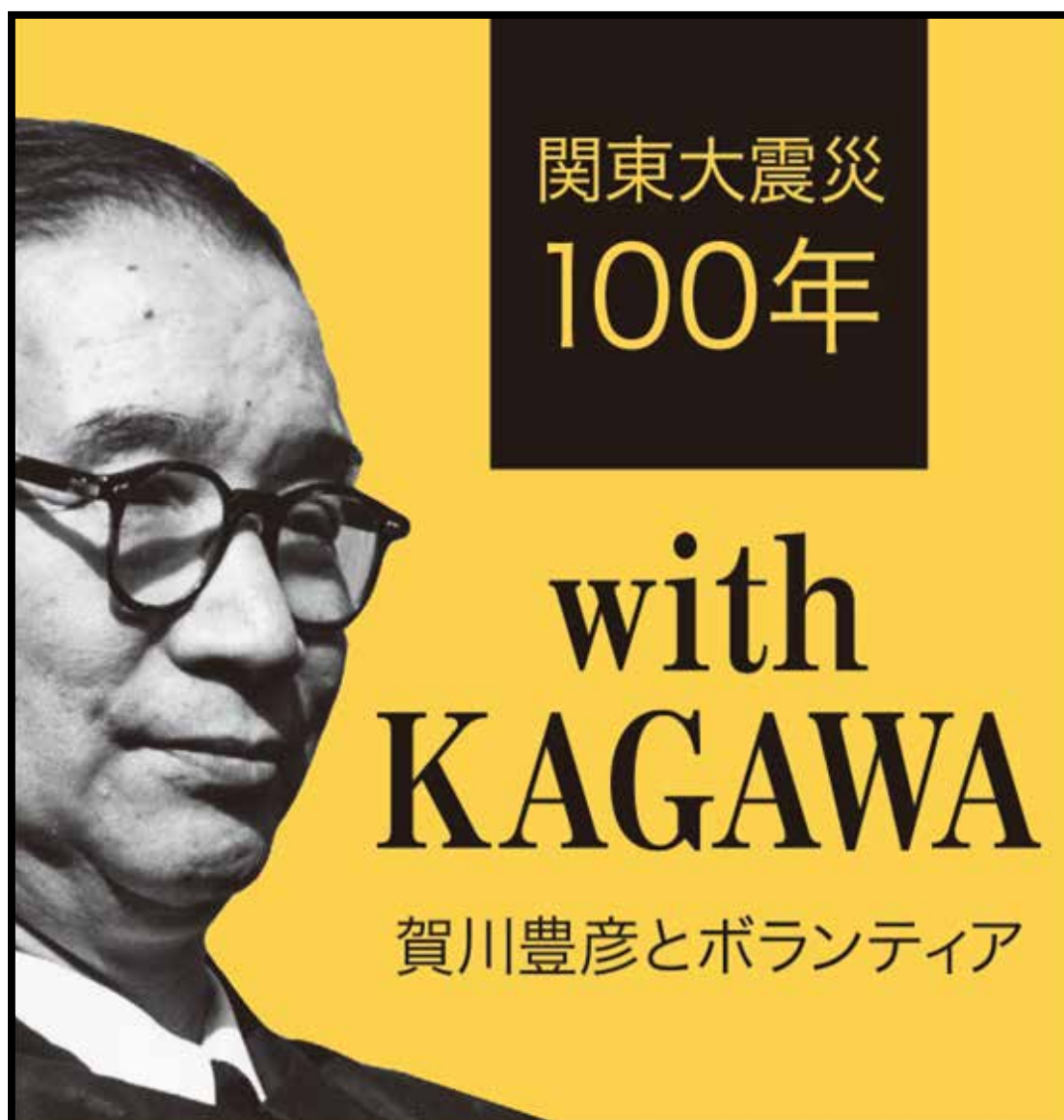


「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」
実行委員会活動報告書（公開版）



「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会

はじめに

2023年は関東大震災が発生し、未曾有の被害を受けた東京に、賀川豊彦がかけつけ、献身的な復興活動を開始してから100年となる年でした。これを機に、同年3月、賀川豊彦関係団体・協同組合連絡協議会より実行委員会設立に向けて呼びかけを行い、4月27日に実行委員会は設立されました。賀川豊彦ゆかりの団体や研究者など、実行委員として37団体、協力団体として2団体の合計39団体および参与4名に参加いただきました。また各界より8名の有識者に顧問としてご支援いただきました。皆さまにはこの1年半の事業実施へのご協力について改めて御礼申し上げます。

実行委員会は、8月31日のキックオフ集会を経て、シンポジウム、展示・講演・視察、PR事業（特設Webページ、ロゴ、アニメ・動画制作、出版、図書寄贈）などの事業を実施しました。これら事業の実施を通じて、実行委員団体間の交流を深め、改めて賀川豊彦の活動を振り返り、果たした功績と影響力の大きさを共有するとともに、対外的な発信にも努めてまいりました。本報告書は、その足跡を記録として残すため、編まれたものです。

国内では人口減少・高齢化が進む他、物価高騰の中で貧困・格差が広がり、社会的孤立の問題も顕在化しています。世界では気候変動の深刻化に加え、平和の危機にも直面しているなど、持続可能な社会づくりにむけて、解決すべき課題が山積しており、SDGsの達成が危ぶまれる状況です。2024年1月1日には能登半島地震が発災し、大きな被害をもたらしましたが、被災地では復旧すら道半ばの状態です。今後、さらに大きな自然災害の到来も予測されているところです。

来年2025年は2回目の「国際協同組合同年」となります。協同組合の理念・価値およびそれに基づく実践が評価されており、人々の共通の願い・ニーズの実現に向けた「つながる力」の発揮に対する、世界的な期待の現れであると感じます。今回、実行委員会に参加いただいた諸団体の多様なつながりの輪がさらに広がり、強固なものとなり、持続可能な、安心してらせる地域社会づくりに向けた新たな実践として実を結び、SDGs達成に貢献していくことを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

「関東大震災100年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会

呼びかけ人代表

賀川豊彦関係団体・協同組合協議会 会長 松本圭司

(文中、実行委員関係者は敬称略)

目次

趣意書	1
参加団体	2
規約	3
役職者一覧	5
I キックオフ集会	6
II 講演会・シンポジウム	8
1 玉岡かおる特別講演会	
2 第1回シンポジウム	
3 第2回シンポジウム(延長企画含む)	
4 第3回シンポジウム	
III 展示・見学	
1 パネル展「賀川豊彦と関東大震災～ボランティアのはじまり～」	
.....	16
2 関東大震災100年事業「防災まちあるき」	19
IV 広報事業	
ロゴ、HP、アニメ、動画、出版	20
V 賀川豊彦啓発図書寄贈事業・VI 関連イベント	24

*本報告書の文責は、すべて編集者にあります。

また、文中の肩書は、当該記事時点のものです。

関東大震災 100 年賀川豊彦の震災復興事業から考える

多様につながり合う社会をめざして

賀川豊彦から受け継ぐ、連帯、互助、協同の結び直しへ向けて

趣意書

2023 年は、賀川豊彦が関東大震災の被災地支援を行ってから 100 年を迎える。当時賀川は被害が極めて深刻であった本所地区に拠点を構えて、甚大な困難に陥った被災者と被災地における一刻を争う救援に始まり、これらの人びとや地域の生活再建への支援、コミュニティ全体にわたる回復、そして復興へと、息の長い活動を段階的に進めていった。賀川はその際、神戸のスラムで培った経験からの学びをいかんなく発揮する。近代化を象徴する輝く神戸港町の影で生み出されたスラムという構造的貧困の存在を広く社会に訴えたこの若き神学生は牧師となり、仲間たちと共に、神の愛に基づく隣人愛によって苦しみを抱える人びとひとりひとりに寄り添いつつ、様々な社会事業を展開していった。これと同じく、東京では、震災による家屋や街、そして暮らしの焼失という危機的状況に対して、仲間と共に、協同組合保育、消費組合、信用組合、医療組合などを立ち上げて、地域の復興、さらには持続的な組織による新たな社会機能の創出へと連帯、互助、協同の組織化を強力に推し進めた。その後のわが国は暗い時代に突入する。震災に続く未曾有の人災としての戦争。賀川は、終戦直後から戦争のない社会の建設を目指し、世界連邦運動をはじめとした平和運動を牽引するとともに、(日本生協連の前身となる)日本協同組合同盟の立ち上げ、協同組合による共済事業の確立や労働者福祉運動の推進など、新しい連帯づくりにその生涯を賭したのである。

現在、世界は新型コロナウイルス感染症の蔓延、世界的経済の停滞、気候変動、そしてロシアによるウクライナ侵攻という深刻な地球規模の危機的状況を迎えている。これは、かつて賀川とその仲間たちが直面した時代のものとは、規模も質も大幅に異なるものであろう。しかし、この危機的状況だからこそ、かつて賀川と仲間たちが果敢に挑んだように、市民同志あるいは組織同志がつながりあい、同じ目標に向けて行動を共にすることが求められている。賀川豊彦と仲間たちから改めて学び、それを新たな実践に結びつけたい。そのための契機として、本事業を行うものとする。賀川が神戸や本所で仲間と共に紡いだ糸でさらに多くの人たちと結んだ繋がりはその後多くの組織と活動へと結実した。今新たな諸問題に直面して、我々はこの糸を結び直し、さらに大きく多様なつながりでこの困難に立ち向かう必要がある。多くの方々にご賛同とご参加を願う次第である。

「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会

「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会

参加団体（五十音順）

- 1 社会福祉法人 イエス団賀川記念館
- 2 一般社団法人 家の光協会
- 3 学校法人 雲柱社
- 4 社会福祉法人 雲柱社
- 5 公益財団法人 賀川事業団雲柱社
- 6 認定特定非営利活動法人 賀川豊彦記念・鳴門友愛会
- 7 公益社団法人 教育文化協会
- 8 共栄火災海上保険 株式会社
- 9 株式会社 キリスト新聞社
- 10 一般財団法人 国際平和協会
- 11 生活協同組合コープみらい
- 12 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会
- 13 世界連邦運動協会
- 14 世界連邦日本国会委員会
- 15 全国共済農業協同組合連合会
- 16 全国厚生農業協同組合連合会
- 17 全国農業協同組合中央会
- 18 一般社団法人 全国労働金庫協会
- 19 全国労働者共済生活協同組合連合会
- 20 東京基督教大学共立基督教研究所
- 21 東京都生活協同組合連合会
- 22 東都生活協同組合
- 23 公益財団法人 東京 YMCA
- 24 中ノ郷信用組合
- 25 一般社団法人 日本協同組合連携機構
- 26 宗教法人日本基督教団松沢教会
- 27 日本コープ共済生活協同組合連合会
- 28 一般社団法人 日本社会連帯機構
- 29 日本生活協同組合連合会
- 30 日本労働組合総連合会
- 31 日本労働組合総連合会東京都連合会
- 32 日本労働者協同組合連合会
- 33 公益財団法人 日本 YMCA 同盟
- 34 パルシステム生活協同組合連合会
- 35 一般財団法人 本所賀川記念館
- 36 学校法人 明治学院
- 37 労働者福祉中央協議会

○ 協力団体

・ 宗教法人日本基督教団銀座教会

・ 主婦連合会

2023年7月28日制定

2024年3月14日改正

「関東大震災 100年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会規約

（名称）

第1条 本会は、「関東大震災 100年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

（事務局）

第2条 実行委員会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、賀川豊彦関係団体・協同組合連絡協議会（別紙1）事務局によって構成される。
- 3 事務局は、公益財団法人賀川事業団雲柱社（東京都世田谷区上北沢 3-8-19）内に置く。

（目的）

第3条 実行委員会は関東大震災から100年を迎えたことを機に、趣意書（別紙2）に基づき、賀川豊彦（1888-1960）のボランティアの精神と諸活動に学び、新たな実践に結びつけるための啓発事業（以下、「事業」という。）を行うことを目的とする。

（事業）

第4条 実行委員会は、前条の目的を達成するため、事業の企画及び運営を行う。

（構成）

第5条 実行委員会は、趣意書に賛同する団体等（以下「実行委員」という。）をもって構成する（別紙3）。

（役員）

第6条 実行委員会の役員と職務は、次のとおりとする。

- （1）共同実行委員長（3名）共同実行委員長は、共同して実行委員会を代表する。
- （2）参与（若干名）参与は、学識等の識見に基づき、実行委員会に対して助言を行う。
- （3）顧問（若干名）顧問は、必要に応じて実行委員会から相談を受け助言を行う。

なお、顧問のうち、特別顧問を置くことができる。

（4）監事（2名）監事は、実行委員会の会計事務を監査する。

- 2 役員は、実行委員会の議決によって選任する。

(任期等)

- 第 7 条 実行委員及び役員の任期は第 11 条の規定により実行委員会が解散する日までとする。
- 2 委員及び役員は、無報酬とする。

(会議)

- 第 8 条 実行委員会の会議は、必要に応じて、第 2 条で定める事務局が招集し、進行する。
- 2 実行委員会は、趣意書、実行委員会及び事業に関する事項を審議し、決定する。
- 3 実行委員会の意志の決定は、合議を原則とする。

(経費)

- 第 9 条 実行委員会の経費は、原則として分担金をもって充てる。
- 2 事業の経費は、原則として実行委員による実費負担とする。ただし、寄付の申し出であった場合は、実行委員会の承認を経てこれを受け入れ、その趣旨に基づき該当する事業の経費に充てるものとする。

(会計年度)

- 第 10 条 実行委員会の会計年度は、規約の効力が生じた日から、翌年 3 月 31 日までとする。ただし、必要に応じて新たに会計年度を設定することができる。

(解散)

- 第 11 条 実行委員会は、2024 年 7 月末日をもって解散する。

(残余財産の帰属)

- 第 12 条 実行委員会が解散したときに残余財産が生じた場合、その処分方法については、実行委員会で審議の上、決定する。

附則 この規約は、実行委員会で議決後、2023 年 4 月 27 日に遡って効力が生じることとする。

別紙 1 * 賀川豊彦関係団体・協同組合連絡協議会会則

別紙 2 趣意書

別紙 3 実行委員名簿 (2023 年 7 月 28 日現在)

* 本報告書においては転載省略。

「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会 役職者

(敬称略五十音順)

共同実行委員長	鵜殿 博喜 (明治学院学院長)
共同実行委員長	土屋 敏夫 (日本生活協同組合連合会代表理事会長)
共同実行委員長	芳野 友子 (日本労働組合総連合会会長)
参 与	青竹 豊 (日本労働者協同組合連合会顧問)
参 与	伊丹 謙太郎 (法政大学大学院連帯社会インスティテュート教授)
参 与	伊藤 治郎 (日本協同組合連携機構常務理事)
参 与	篠田 徹 (早稲田大学社会科学総合学術院教授)
特 別 顧 問	鈴木 俊一 (衆議院議員)
顧 問	浅田 克己 (日本生活協同組合連合会元会長)
顧 問	阿部 志郎 (神奈川県立保健福祉大学名誉学長)
顧 問	今尾 和實 (全国共済農業協同組合連合会元理事長)
顧 問	逢見 直人 (日本労働組合総連合会顧問)
顧 問	大橋 光夫 (世界連邦運動協会会長)
顧 問	奥田 知志 (特定非営利活動法人抱樸代表)
顧 問	玉岡 かおる (作家、大阪芸術大学教授)
監 事	菊池 毅 (中ノ郷信用組合総務部経営企画課長)
監 事	小池 理恵 (全国労働金庫協会経営企画部次長)
呼びかけ人代表	松本圭司 (日本生活協同組合連合会渉外広報本部長)

I キックオフ集会

- 日 時 2023年8月31日(木) 18時 ~ 19時45分
- 会 場 みどり食堂(東京都千代田区)
- 出席者 26団体、54人 ○ 進 行 真島明美(連合東京副事務局長)
- 内 容

第1部 実行委員会総会 18:00 ~ 18:20

- 1 開会宣言 呼びかけ人代表 松本圭司
(日本生活協同組合連合会 渉外広報本部長)
 - 2 共同実行委員長のあいさつ
学校法人 明治学院学院長 鵜殿博喜(登壇)
日本生活協同組合連合会代表理事会長 土屋敏夫(登壇)
日本労働組合総連合会会長 芳野友子(ビデオ)
- *あいさつ 東京都知事 小池百合子氏(ビデオ)*
- 3 事業企画の紹介 実行委員会事務局
杉浦秀典((公財)賀川事業団雲柱社賀川豊彦記念松沢資料館副館長)

第2部 キックオフ・レセプション 18:20 ~ 19:45

- 乾杯 実行委員会 参与 伊藤治郎(日本協同組合連携機構常務理事)
- 歓談 (後半、実行委員会制作アニメ「震災ボランティアの先駆者 賀川豊彦」を公開)
- 1 顧問のあいさつ(当日の順)
世界連邦運動協会会長 大橋光夫(登壇)
全国共済農業協同組合連合会元理事長 今尾和實(登壇)
日本労働組合総連合会顧問 逢見直人(登壇)
作家 玉岡かおる(ビデオ)
 - 2 実行委員会・協力団体 自己紹介(五十音順)
 - 3 閉会の挨拶 石井マヤコ(公益財団法人賀川事業団雲柱社理事長)

* 関東大震災発の地の首長として、本実行委員会のキックオフにあわせて東京都知事からメッセージをいただいた。

「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」キックオフ集会出席者

【顧問】

全国共済農業協同組合連合会元理事長	今尾和實
日本労働組合総連合会 顧問	逢見直人
世界連邦運動協会 会長	大橋光夫

【実行委員団体】

(☆印：共同実行委員長、*印：実行委員会参与)

一般社団法人 家の光協会	出版本部本部長 岩澤信之、図書編集部編集次長 近井朋人
社会福祉法人 雲柱社	理事長 小磯 満
公益財団法人賀川事業団雲柱社	理事長 石井マヤコ、常務理事 刈谷雅夫
同	賀川記念松沢資料館館長 黒川知文
同	副館長 杉浦秀典、専任事務局 曾根和久
共栄火災海上保険 株式会社	団体組織開発部長 吉田雅弘、団体組織開発部課長 山下雅彦
一般財団法人 国際平和協会	会長 伴武澄
生活協同組合コープみらい	副理事長 永井伸二郎、代表理事専務理事 河田喜一
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会	常勤理事企画部長 前田和記
世界連邦運動協会	理事長 木戸寛孝、事務局次長 川口美貴
全国共済農業協同組合連合会	常務理事 近藤 修一、総務部部長 東千香子、総務部次長 渡部亘
全国厚生農業協同組合連合会	代表理事理事長 中村純誠、経営支援部長 滝沢洋二
全国農業協同組合中央会	総務企画部協同 組合連携リーダー 一箭拓朗
全国労働者共済生活協同組合連合会	常務執行役員 渡辺秀子、経営企画部調査渉外室長 佐々木祐介
同	経営企画部調査渉外室調査渉外課 津曲ゆか
東京基督教大学共立基督教研究所	名誉教授 稲垣久和
東京都生活協同組合連合会	会長理事 村上次郎
同	総務・会館管理部長兼渉外・政策担当 末益毅
公益財団法人東京 YMCA	代表理事 菅谷淳、理事・統括 秋田正人
一般社団法人 日本協同組合連携機構	常務理事 伊藤治郎*、業務執行理事 佐藤渉
日本コープ共済生活協同組合連合会 総	総合マネジメント本部渉外・広報部長 浅田佳則
同	総合マネジメント本部渉外・広報部 渉外・広報 G 大塚 優
日本生活協同組合連合会	代表理事会長 土屋敏夫☆、渉外広報本部長 松本圭司
同	広報担当 釈迦郡克行、渉外担当 清水廉
日本労働組合総連合会	企画局長 山根正幸
日本労働組合総連合会東京都連合会	内村昌司、副事務局長 真島明美
日本労働者協同組合連合会	専務理事 田嶋康利、顧問 青竹豊*
公益財団法人日本 YMCA 同盟	主任主事 石橋英樹
パルシステム生活協同組合連合会	常務理事 辻正一、渉外・広報室 室長 植田真仁
一般財団法人 本所賀川記念館	理事長 加藤輝勢子
学校法人明治学院	学院長 鶴殿博喜☆
(協力団体) 主婦連合会	副会長 柿本章子
【広報プロジェクト】(株)エニウエイ	代表取締役 秋葉健史、(株)パンチ 代表取締役 渡辺一雄

Ⅱ 講演会・シンポジウム

Ⅱ-1 玉岡かおる特別講演会

- 主 催 「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会
- 日 時 2023 年 9 月 2 日（土）
- 講演者 玉岡かおる氏（作家）
- 会 場 銀座教会 B1F（東京都中央区）
- 出席者 20 名

Ⅱ-2 第 1 回シンポジウム

- 主 催 実行委員会
- 日 時 2023 年 10 月 21 日（土）13 時 30 分～15 時 30 分（終了後茶話会あり）
- 会 場 日本基督教団銀座教会 5F ぶどう（東京都中央区）
- 出席者 85 名（会場 30、Zoom18、YouTube37）
- 内 容
 - ・開会のあいさつ（公財）賀川事業団雲柱社理事長 石井マヤコ
 - ・基調講演「賀川豊彦と本所基督教産業青年会がめざしたもの」
 - 講 師 山崎ハコネ氏（学校法人敬和学園大学 共生社会学科教授）
 - 同 明城徹也氏（認定 NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（略称：JVOAD）事務局長）
 - <進行> 秋田正人（実行委員会・東京 YMCA）

第 1 部 成立過程をめぐって —キリスト教と救護運動のつながり—

第 2 部 本所基督教産業青年会の取り組み—震災とセツルメント活動—

第 3 部 本所基督教産業青年会のめざしたもの

—本所基督教産業青年会から本所賀川記念館へ—

- ・閉会のあいさつ 田口努（日本 YMCA 同盟総主事）



関東大震災の救護活動の拠点となった本所のテントの中で

第1回シンポジウムチラシ

2023年10月21日(土) 13:30～15:30 (終了後茶話会があります)

入場無料!

基調講演 講師:山崎ハコネ氏

「賀川豊彦と本所基督教産業青年会がめざしたもの」

略歴:学校法人教和学園大学 共生社会学科教授、学科長 社会福祉法人からし盟の会理事長 1957年新潟生まれ。1987年東京神学大学大学院修了、2008年日本社会事業大学大学院修了。1998年からし盟の会創設から現在まで社会福祉法人からし盟の会理事長現在に至る。



明城徹也氏

山崎ハコネ氏



対談者 明城徹也氏

全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)事務局長

略歴:福井県出身。米国の大学を卒業後、アフリカ支援・緊急人道支援のNGOにおいて現地事業責任者などを経験。ルワンダ帰還民支援事業、パキスタン地震被災者支援事業、南スーダン帰還民支援事業等、数多くのプロジェクトに携わる。東日本大震災では震災直後より現地入りし、被災者支援・復興支援に従事。その経験から全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)の立上げに関わり、2016年11月にNPO法人として設立されたのを機に事務局長に就任。被災地での支援のコーディネートに努めている。

申し込み先 <https://onl.bz/7X8NeYp> ⇒



会場は先着70名様(開場は13時より)締切:10月20日

オンライン視聴もできます。上記へお申し込み後に

Eメールで情報をお送りします。

会場 日本基督教団銀座教会5Fぶどう



日本基督教団銀座教会 5F ぶどう

東京都中央区銀座4丁目2番1号

<https://www.ginza-church.com/>

お問い合わせ先 : 03-3302-2855

賀川豊彦記念松沢資料館



主催: 「関東大震災100年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会

賀川豊彦とボランティア 第一回シンポジウム

関東大震災100年事業 賀川豊彦とボランティア 関連企画

Ⅱ-3 第2回シンポジウム

たすけあい・ボランティア・働くを考える集い

※協同組合連携企画として、協同組合関係有志で企画

- 日 時 2024年2月3日(土) 13時30分～16時30分
- 会 場 連合会館(東京都千代田区) ○ 出席者 220名
- 内 容

<進行> 尾島邦彦(実行委員会・全国労金協会)、

津曲ゆか(実行委員会・こくみん共済coop)

- ・開会挨拶 関東大震災100年事業 実行委員会共同実行委員長
日本生協連代表理事長 土屋敏夫
- ・趣旨説明 同実行委員会参与・日本労協連顧問 青竹豊
- ・映画上映 「医師中村哲の仕事・働くということ」

<上映後トーク、交流セッション>

- スペシャルトーク タレント 小島よしお氏
- アフタートーク ペシャワール会 石橋忠明氏
生活協同組合ユーコープ 矢崎 夏彦氏
コープデリ生活協同組合連合会 村田 怜奈氏
- 交流セッション 参加者で映画の感想や「たすけあい・ボランティア・働く」について交流
- まとめと挨拶 法政大学教授 伊丹謙太郎〔実行委員会参与〕

<交流会>

- シンポジウム終了後、連合会館401会議室で交流会を開催した(17～19時)。
第2回シンポジウムの出席者から、53名が参加した。

*第2回シンポジウムから派生して実施された本作品の上映会

・実行委員会主催(協力:日本労働者協同組合連合会、日本社会連帯機構)

- 日 時 2024年3月23日(土) 14時～15時30分
- 会 場 賀川豊彦記念松沢資料館(東京都世田谷区)
- 内 容 ①映画上映 ②アフタートークビデオ上映(小島よしお氏、石橋忠明氏)
- 出席者 25名。

・コープデリ連合会・コープみらいの有志主催の上映会(協力:日本労働者協同組合連合会)

- 日 時 2024年3月21日(木)18時～19時30分
- 会 場 コープデリ連合会本部
- 内 容 1映画上映 2意見交流
- 出席者 43名

第2回シンポジウムチラシ（表）

労働者協同組合法
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。
これは人間の仕事である。

関東大震災 100年「賀川豊彦とボランティア」関連企画
with KAGAWA

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは！

映画「医師 中村哲の仕事・働くということ」上映&
たすけあい、ボランティア、働くを考える集い
2024年2月3日(土)13:30~16:30 連合会館
小島よしおさん(タレント)ビデオ登場
どなたもお気軽にご参加ください **参加無料**

医師 中村哲の
仕事・働く
ということ

語り：室井滋 朗読：塚本晋也
監修：室井滋
企画・制作：社会福祉法人社会福祉協議会
協賛：社会福祉協議会
主催：社会福祉協議会
後援：社会福祉協議会
協力：社会福祉協議会
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112

第2回シンポジウムチラシ (裏)



アフガニスタンとバキスタンで、
病や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
35年にわたり
活動を続けた男がいた。

医師中村哲の
仕事・働く
というこ

1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確手とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には賃しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない」荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。
中村医師は言う「これは人間の仕事である」



1月1日能登半島地震が発生。100年前、賀川豊彦は関東大震災で「たすけあい」を広げ復興に尽くした(当時の賀川の歩みは実行委サイト)。中村哲医師も苦しむ人々を救うため現地の人々とともに働いた。映画をつうじ「たすけあい」について考え交流します。

➢ 日時・会場：2月3日(土) 13:30～16:30 連合会館大会議室(300名) **参加無料**

- 連合会館：東京都千代田区神田駿河台 3-2-11
- 地下鉄：千代田線「新御茶ノ水駅」B3出口すぐ。丸ノ内線「淡路町駅」B3出口。都営新宿線「小川町駅」B3出口。
※丸ノ内線/新宿線を利用の方は地下道を通り千代田線方面へ。B3a・B3b 出口は違う方向へ出るので注意。
JR：中央線・総武線「御茶ノ水駅」聖橋口(徒歩5分)

➢ 内容：①映画上映 ②アフタートーク(NGO ベンチャー会、協同組合の若手から)
③交流セッション(感想や思いを気軽に語り合い)

➢ 事前申込：1月29日(月)までに以下の申込フォーム・QRコードからお申込み下さい。
ご不明な点はお電話にてお願いします。定員になり次第締め切らせていただきます。

申込フォーム：<https://ws.formzu.net/fgen/S98402299/>

お問合せ電話：03-3302-2855 (火曜～土曜 10～17時/賀川豊彦記念松沢資料館)



➢ 主催：関東大震災100年事業・賀川豊彦とボランティア実行委員会 <https://sinsai100.online/>
(共同実行委員長：鶴殿博喜・明治学院学院長、土屋敬夫・日本生協連会長、芳野友子・連合会長)

協力：カガワ協同組合スクーリング(主催団体：JA 全中、こくみん共済 coop、日本生協連)

Ⅱ-4 第3回シンポジウム

「たすけあいの社会」を世界にまで広げよう！
グローバルリスク、制度、ソーシャルアクティビティを考える

- 主 催 実行委員会
- 日 時 2024年3月30日(土) 13:00～16:30
- 会 場 連合会館(東京都千代田区)
- 内 容

第1部 <進行>木戸寛孝(実行委員会・世界連邦運動協会理事長)

講演Ⅰ 公益財団法人徳川記念財団理事長 徳川宗家19代当主 徳川家広氏
「地球環境問題の解明－江戸時代から学べること、学べないこと」

講演Ⅱ 横浜市立大学教養学部教授 上村雄彦氏
「世界連邦政府の実現に向けて－グローバル・タックス、グローバル・ベーシック・インカム、市民運動の連携の可能性」

第2部 パネルディスカッション

「地球規模のたすけあいをみんなでかんがえよう！」

<進行>上村雄彦

ゲスト 元駐マラウイ大使 柳沢香枝氏
世界連邦運動協会国際委員長 谷本真邦

- 出席者 106名

第3回シンポジウムチラシ（表）

「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会 主催 **入場無料**
第三回シンポジウム

「たすけあいの社会」を 世界にまで広げよう！

グローバルリスク、制度、ソーシャルアクティビティを考える

第一部

講演Ⅰ 徳川家広氏 徳川宗家 19 代当主、公益財団法人徳川記念財団理事長
講演題：「地球環境問題の解明－江戸時代から学べること、学べないこと」

講演Ⅱ 上村雄彦氏 横浜市立大学国際教養学部教授
講演題：「世界連邦政府の実現に向けて－グローバル・タックス、
グローバル・ベーシック・インカム、市民運動の連携の可能性－」

司会：木戸寛孝氏 世界連邦運動協会理事長、明治の元勳木戸孝充 6 代目

第二部

パネルディスカッション 上村雄彦氏
「地球規模のたすけあいをみんなでかんがえよう！」

ゲスト 柳沢香枝氏 元駐マラウイ大使、国連開発計画シニアアドバイザー、
国際緊急援助隊事務局長、女性初の国際協力機構理事を歴任
谷本真邦氏 世界連邦運動協会国際委員長、
世界連邦日本国会委員会事務次長、世界連邦国際本部 顧問

2024年3月30日(土)

12:15 受付 13:00 開演 16:30 終了予定

場所：連合会館 203 号室（東京都千代田区神田駿河台 3-2-11）

地下鉄：千代田線「新御茶ノ水駅」B3 出口すぐ。
丸の内線「淡路町駅」B3 出口。
都営新宿線「小川町駅」B3 出口。
+ 丸の内線/新宿線をご利用の方は地下道を通り千代田側方面へ。
B3a・B3b 出口は違う方向へ出るので注意。
JR：中央線・総武線「新御茶ノ水駅」聖橋口（徒歩 5 分）

関東大震災 100 年 with KAGAWA



定員 100 名。こちらのフォームからお申し込みください→

第3回シンポジウムチラシ (裏)



徳川家広

徳川家 19 代当主、
公益財団法人徳川記念財団理事長
1965 年東京に生まれる。慶應
義塾大学卒業後、米ミシガン
大学大学院で経済学修士号を
取得、国連食糧農業機関 (FAO)
ローマ本部とベトナム支部で
勤務の後、米コロンビア大学大学院で政治学修士号
を取得。



上村雄彦

横浜市立大学国際教養学部教授
国連や NGO、大学やシンクタンクで
の勤務経験から、地球規模課題が人
類の生存危機にまで深刻化している
事態に気づき、教育、研究、講演、
執筆、ネットワーク活動を通じて、
現状を変えるチェンジ・メーカーの
養成を行っている。特に、グローバル・タックスと世界政府
の創設に力を入れている。



大橋光夫

世界連邦運動協会会長
1936 年東京に生まれる。慶応義
塾大学卒業後、三井銀行を経て
1961 年 12 月昭和電工株式会社
に入社。1997 年 3 月代表取締役
社長就任、2005 年 1 月代表取締
役会長就任、相談役、最高顧問、
名誉相談役を務め、2023 年 1 月より株式会社レゾナック・
ホールディングス (昭和電工株式会社から社名変更) 名
誉相談役。2023 年 3 月世界連邦運動協会第 9 代会長に
就任し、現在に至る。



柳沢香枝

元駐マラウイ大使、
国連開発計画シニアアドバイザー、
国際緊急援助隊事務局長、
女性初の国際協力機構理事
独立行政法人国際協力機構
(JICA) で、長年にわたり開発協
力に従事。ウズベキスタン事務
所長、アフリカ部審議役、国際緊急援助隊事務局長、東・
中央アジア部長などを歴任。国連開発計画 (UNDP) で
もシニアアドバイザーとして勤務。2014 (平成 26) 年
JICA 理事。2016 (平成 28) 年から 2019 年 (令和元)
年まで駐マラウイ特命全權大使。



木戸寛孝

世界連邦運動協会 理事長
1969 年生まれ。慶応大学法学
部卒業後、(株)電通に入社。電通を
退社後、1999 年 10 月から 2003
年 3 月まで千葉県香取市で農業に
従事。2003 年 11 月から、国際
NGO 世界連邦運動協会の事務局長として、2002 年オラ
ンダ・ハーグに常設された国際刑事裁判所 (ICC) に日本
政府が加盟するためのロビー活動において中心的役割を
果たす。2022 年 10 月より理事長に就任。明治維新の元勳・
木戸孝允の直系 6 代目。



谷本真邦

世界連邦運動協会 国際委員長
世界連邦国際本部 顧問
(World Federalist Movement;
国際連合経済社会理事会特殊
諮問組織)、世界連邦日本国会
委員会 事務次長 (会長・国
会議員秘書)
国際平和構築協会理事・事務局長、国会有識者諮問機関グ
ローバルガバナンス推進委員会・事務局長なども務め、京
都芸術大学客員教授に就任し同大学付属機関・京都国際平
和構築協会事務局長。

主催：関東大震災 100 年事業賀川豊彦とボランティア実行委員会

企画：第三回シンポジウムプロジェクト委員会

後援：世界連邦運動協会 世界連邦日本国会委員会

お問い合わせ：03-3302-2855 office@t-kagawa.or.jp 賀川豊彦記念松沢資料館



詳しくは公式ホームページをご覧ください

Ⅲ 展示・見学

Ⅲ-1 パネル展

「賀川豊彦と関東大震災～ボランティアのはじまり～」

1923年9月、賀川豊彦は未曾有の地震に襲われた東京へ駆けつけ、被災者支援を行った。翌年賀川は日本で初めて「ボランティア」という言葉を使いはじめた。それは「志願兵」という意味であった。やがて賀川はそれらの「ボランティア」たちを組織化して、持続可能な社会事業へと発展させていった…。本展は銀座教会を会場に関東大震災における賀川豊彦の軌跡をパネル展示を通じてたどります。

銀座会場案内

関東大震災100年事業 賀川豊彦とボランティア 関連企画

パネル展 賀川豊彦と関東大震災

ボランティアのはじまり

入場無料

会場：日本基督教団銀座教会1Fギャラリー（入場無料）
開催期間：2023年8月29日（火）～9月10日（日）10：00～16：30
日曜日のみ 13：00～16：30 定休日：水曜日
※展示場終了後は、賀川豊彦記念史料資料館で展示します。
開催期間：2023年9月16日（月）～2024年9月30日（土）

日本基督教団銀座教会1Fギャラリー
東京都中央区銀座4丁目2番1号
電話：(03)3561-0236
<http://www.ginza-church.com/>

主催：日本基督教団銀座教会、賀川豊彦記念史料資料館
「関東大震災100年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会

- 主催 日本基督教団銀座教会、実行委員会（パネルは賀川事業団雲柱社が作成）。
- 期間 2023年8月29日（火）～9月10日（日）日曜の午前と水曜休館
- 会場 銀座教会 1F ギャラリー（東京都中央区）
- パネル枚数 全 53 枚
（テーマ別内訳）
賀川豊彦と関東大震災：35 枚、
賀川ハル：18 枚、
実行委員団体パネル 5 枚（希望のあった 9 団体について作成）
- 来場者数 185 人

展示パネル (一部)

関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア 関連企画



特別展 賀川豊彦と関東 一震災ボランティアの

共催 日本基督教団関東会 賀川豊彦記念社
「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」

現地にて



被災地にて
賀川豊彦 (中央)
末広源太郎 (左)
石田友治 (右)

神戸を脱して東京へ到着した賀川は、神田区土代町の東京 YMCA を訪れ、焼け残った石段の前で、大声で賛美歌を歌っていた賀友石田友治と再会した。そしてその互見の中でともに歌って「東京を再興したまえ」と祈った。それはただの空しい神楽の言葉ではなかった。反響の中で賀川と石田や仲間は現地の情報交換をし、罹災の救済についての打ち合わせをし、実行に移す前に神に祈りをこめらば上野へと足を向けた。上野公園で地まきをするためであった。数人の奉仕する者、スミルトとバケツを載せて引いていく者、小高い丘から帝都東京を見渡し、そのあままだ火はくすぶり続けており、その焼け野なかつた。

石田友治は 1923 (大正 12) 年 3 月に東京 Y 『復活共済組合』に賛同して以来、1942 (昭和 20) 年、設立として賀川と活動を共にしたの活動を行った。

突如東京を襲った大地震



焼けた東京 YMCA

赤川橋根横河北西沖 80 キロを震源とした海溝型の大地震が発生した。東京、神地方の広い範囲に甚大に被害をもたらせ、全壊した住宅が 11 万、半壊 10 万、潰壊されている。近代化を迎えた日本が激が震動した。なつてから、関西で活躍していた賀川豊彦は、乳搾の終わるやいなや神戸の車をはかり、徳島の便自らも被災地へと向山崎丸に乗り、翌 3 日に横浜に到着。4 汽車を使って品川まで行く。その日は 15 日には東京の災害救済事務所を訪れ、金は十分あるが、資金と物資が必要

賀川の言葉 ② 良き隣人として寄り添う



賀川の言葉

「...一度に数十万人の貧民を作った今日、隣人としての私たちは助貧に彼等が助けなければならないのである。特に、お世でお助けすることができるものと、金でお助けできないものがあるから、私たちがように金のないものは、善き隣人としてお近づきになるより仕方がない。私の第一にしたい仕事は、セルフメントである。この冬を通じて被災者の生活を支え、バラックの苦悩を自らも一緒に味わい、それを科学的に調査して世間へ伝えることである。つまり私は「医」になりたいということであった...」
『地球を救済として』

賀川の言葉 ① 「組織する仕事は私たちの仕事」



大正 13 年 本所松倉町で始めた診療スタッフ



関東大震災救援に集まった人々

賀川の言葉

「...私たちが少しでも悲しむだけでも被災者の苦しみを我らの肩に負わせてもらうことが出来るなら、それほどうれしいことはないのである。それで、被災者たちが、自ら自己の互助の方で立ちえるようにお助けすることが出来るなら、それも結構である。すなわち、組織する仕事は私たちの仕事である。苦しんでいる人々の助けに頼りながら何からお助けしてよいかを頼ると共に、お世を出さなくとも、苦しんでいる人々の自力でそれを克服し得る方法を考えて差し上げるのである...」
『地球を救済として』より

関東大震災 100 年事業「防災まちあるき」

- 主 催 連合東京
- 共 催 実行委員会
- 日 時 2023 年 9 月 13 日（水）
- 会 場 すみだ産業会館 9 階・第 4 会議室（墨田区）、墨田区内 4 か所
- 講 師 東京都スポーツ局地域活動推進課統括課長代理 村田陽次氏
賀川豊彦記念松沢資料館（賀川事業団雲柱社）副館長 杉浦秀典
- 出席 52 名

時間	内 容
13:30	開会 上本 俊之 連合東京政策局・局長 実行委員会挨拶 青竹 豊 実行委員会 参与 労働者協同組合連合会 常勤顧問
〔第 1 部〕講演会／すみだ産業会館 9 階・第 4 会議室	
13:40	講演 1 「東京都における災害ボランティア活動支援について」（20 分） 〔講師〕村田 陽次 東京都生活文化スポーツ局地域活動推進課 統括課長代理
14:00	講演 2 「賀川豊彦と関東大震災」（20 分） 〔講師〕杉浦 秀典 賀川豊彦記念松沢資料館 副館長
〔第 2 部〕防災まちあるき／すみだ産業会館～墨田区内 4 か所～すみだ産業会館	
14:20	趣旨説明 真島 明美 実行委員 連合東京 社会政策局長
14:30	2 グループ（1 号車：実行委員会、2 号車：連合東京）を編成 →すみだ産業会館前のバス乗場へ移動 →バス 2 台に分乗
14:40	バス出発・移動
14:50	①<被災地> 旧陸軍被服廠跡（横網町公園内復興記念館・慰霊堂） ※トイレ有
15:35	バス出発・移動
15:55	②<賀川豊彦の復興活動拠点> 本所賀川記念館 ※トイレ有
16:25	バス出発・移動
16:40	③<企業・行政が連携する防災拠点（一時集合場所、避難場所、防災喫煙所）> 日本たばこ産業株式会社東京支社周辺 ※車内から見学／喫煙所有
16:55	バス出発・移動
17:10	④<自治会・行政が連携する防災拠点（防災団地、災害用井戸・トイレ等）> 白髭東地区団地 ※トイレ有
17:30	バス出発・移動
17:55	バス すみだ産業会館前に帰着 →交流会出席者は下記会場へ直行／交流会欠席者は解散
〔第 3 部〕交流会／すみだ産業会館 8 階・ホール D	
18:00 ～ 19:30	交流会

IV 広報事業

ロゴマーク

○ 2023年8月制定（制作：家の光協会）



実行委員会ホームページ

○ 2023年9月稼働（制作：賀川事業団雲柱社）URL <https://sinsai100.online>



上・右
トップページから
(部分)



賀川豊彦について

スラム街での救済事業からはじまり、労働組合、農民組合、協同組合、平和運動。そして日本初のミリオンセラー作家！
幅広い賀川の活動を貫いたのは隣人愛に基づき、助け合いの精神と行動でした。
賀川豊彦は若き日、神戸のスラムに身を投じて貧しい人々の救済に専念しました。壮年時代には、労働組合運動・農民運動、協同組合運動、無産政党創立運動に献身し、関東大震災が発生するや、東京にて、罹災者救済やセラムメント事業に力を尽くしました。また生涯を通じて日本と世界にキリスト教の伝道を行い、戦後は伝道と著作のかたわら世界連邦運動を推進、指導しました。
これらの諸活動を踏襲する間に宗教、哲学、経済、社会、文明批評、戯業、小説等の作品を多数発表しました。それらは、彼の死後「賀川豊彦全集」(全24巻)として刊行されています。彼の事業は関西、関東を始め、全国に亘り数多くの同志を組織して行われ、その運動は広範な規模において展開されました。

・主な記事

イベント告知・記録（動画）、アニメ、年表、アーカイブズ写真（賀川豊彦と関東大震災）、関東大震災関連の賀川執筆文献目録（一部PDFで閲覧可）、ほか。

アニメーション「震災ボランティアの先駆者 賀川豊彦」

○ 2023年8月公開（制作：実行委員会）



上・右 アニメ（一部）

ビデオ「小島よしおと学ぶ ボランティアの父賀川豊彦」

○ 2023年12月公開（制作：実行委員会）



上・右 動画（一部）

「まんがでわかる 賀川豊彦と考えるボランティア」



- ・発行日：2023年12月20日
- ・編者：実行委員会
- ・まんが：富士山みえる
- ・発行：家の光協会
- ・仕様：B5判並製、64頁
- ・定価：545円（税抜）
- ・発行部数：14,000部



目次

はじめに

関東大震災
そのとき
賀川豊彦は

クイズで復習



V 賀川豊彦啓発図書寄贈事業

賀川豊彦啓発図書寄贈事業

実行委員会編「まんがでわかる賀川豊彦と考えるボランティア」を全国の図書館に寄贈

VI 関連イベント

▶本所賀川記念館

- 2023年度東駒形教会・本所賀川記念館・雲柱社合同研修会
- ・日 時 2023年6月25日(日) 10時15分～16時
- ・内 容 関東大震災100年を迎えて賀川豊彦から何を学ぶか
午前：東駒形教会 主日礼拝に参加(研修の開会礼拝を兼ねて)
午後：中ノ郷信用組合4階ホールにて
講演「本所賀川記念館の原点ー関東大震災と賀川豊彦と賀川の働きを担った人々ー」(講師)戒能信生牧師
- ・出席者 午前123名 午後150名

▶認定特定非営利活動法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会

- 第2期賀川豊彦学校の第4講義
公開講座「関東大震災などのボランティア活動」
(講師)三河耕二氏
- ・日 時 2023年8月26日(土) 13時～14時30分
- ・出席者 44名
- 第2回賀川豊彦ゆうあいフェスタ
落語家ゴスペル亭パウロ氏による落語会
- ・日 時 2023年11月12日(日) 13時30分～15時
- ・内 容 ①「賀川豊彦・ハル物語」
②「関東大震災から百年」
- ・出席者 32名



公開講座について掲載された徳島新聞の記事(2023年8月27日。部分)。

▶明治学院

- 明治学院歴史資料館主催・企画展「賀川豊彦と明治学院」
- ・実施期間：2023年8月1日（火）～2024年1月9日（火）
- ・会場 明治学院歴史資料館展示室



特別展示のご案内

関東大震災から100年。当組合の創設者賀川豊彦の軌跡をたどる特別展示を本店ロビーにて開催しています。
どなたでも自由にご覧いただけますので、お気軽にお越しください。

会場 中ノ郷信用組合 本店ロビー
会期 令和5年9月8日から
時間 午前9時から午後3時まで

お問い合わせ：中ノ郷信用組合 本店
住所：東京都目黒区中郷4丁目5番4号 TEL:03-3622-6131

中ノ郷信用組合



- ・期間 2023年9月8日（金）
～2024年5月7日（火）
- ・会場 中ノ郷信用組合本店ロビーにて、関東大震災と賀川豊彦のパネルの展示会

▶生活協同組合コープみらい

- コープみらいフェスタ池袋サンシャインシティ
- ・日時 2023年11月26日（日） ・会場 池袋 サンシャインシティ（パネル展示）

▶日本生活協同組合連合会

- 「賀川豊彦と関東大震災—震災ボランティアの先駆者—」
- ・期間 2023年12月27日（水）～2024年3月26日（火）
- ・会場 コーププラザの2階（エレベーターホール横）にパネルを展示

解散式

- 日 時 2024年7月19日(金) 18時～19時45分
- 会 場 賀川豊彦彦記念松沢資料館
- 出席者 19団体、33名 ○進行 伊藤治郎(参与・日本協同組合連携機構常務理事)

「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会 活動報告書

発行日：2024年7月31日 発行者：「関東大震災 100 年事業 賀川豊彦とボランティア」実行委員会 URL： https://sinsai100.online Mail： office@t-kagawa.or.jp (事務局・(公財)賀川事業団雲柱社内) 〒156-0057 東京都世田谷区上北沢 3-8-19 TEL：03-3302-2855 FAX：03-3304-3599
--

本報告書は、無断転載・複製・複写を固く禁じます。